



21世紀を担う子どもたちのために、  
明るい地域社会を築きたい

# いじめ問題を考える 特集

## パート2

# 私はこのように、 いじめを克服しました

4ページで皆さんからお寄せいただいた貴重なご意見(189通をとりまとめお知らせしましたが、そのなかから一例を選びご紹介いたします。この事例は、現在、東京都の中学校に通う赤堀麻央さん(14歳)が、小学4年生から4年間あまりの長い、いじめの自己体験を通して、いじめ克服までの取り組みのひとつとして4年間書き続けてきた心境を、いつか、自分と同じ苦しみを持つかたへ役立つことになれば大変うれしい、という純粋な気持ちで、昨年約4か月の月日をかけて、この作文にまとめ上げたものだと思います。ですから、この作文には一文字一文字、麻央さんの気持ちが込められています。

※なお麻央さんは小学校も狭山市内の学校ではありません

NO.1  
14歳 赤堀 麻央  
「いじめ、弱いからいじめ」  
いじめ、それはなんと醜いことでしょうか。いじめ、そしてなんと悲しいことでしょうか。いじめは何度となくいじめに遭いました。その私は何だか自分が惨めで、また、情けな屋に、どんなにか自分が惨めで、また、情けなくて、自分ごとでもかわいそうでした。いじめに遭った人は、いじめの辛さ、悲しさがとてもよく分かると思います。また、いじめている人は、いじめられている人の身になれば自分も、いじめられている人と同じように感じます。いじめ、それはなんと醜いことでしょうか。いじめ、そしてなんと悲しいことでしょうか。いじめは何度となくいじめに遭いました。その私は何だか自分が惨めで、また、情けな屋に、どんなにか自分が惨めで、また、情けなくて、自分ごとでもかわいそうでした。いじめに遭った人は、いじめの辛さ、悲しさがとてもよく分かると思います。また、いじめている人は、いじめられている人の身になれば自分も、いじめられている人と同じように感じます。

NO.2  
そのいじめのリーダーより私の方が、早くバレーボールを習っていました。私はそのリーダーよりも先輩なのです。私はふと思いましたが、なせ先輩の私が後輩に、いじめられるのでしょうか。普通なら先輩は後輩に尊敬されるはずなのに、私が何をしたらこのようになったのでしょうか。私が弱いということなのでしょう。でもありません。私は本当に弱いのか。何度も自分に問いかけてみました。私は強くなければならない。いや、強くならなければならぬ。そう思ってみるもの、現実の壁は厚く厳しくて、とても逆らうことはできません。私がいつも頭のなかにあることはただひとつ、それは一度でいいからリーダーに思いつき返せたら、どんなにかすっきりするだろうという事です。何度も思っていました。人間なんて、本当はとも弱い動物なんだ。一人じゃ何もできないけれど、かかってはいるのに。本当に弱い人間(自分)はいじめ返すという事ができませんでした。

NO.3  
そのため深く傷ついて、ストレスはもうヒリヒリと向かってフツフツ言っていました。自分の気持ちをいろいろ聞いてもらいたかったです。その時、お星様はとも美しくそれはやなし私を包みこんでくれ、その世の醜いものを打ち消してくれるかのように。そしてお星様はキラッと私にウィンクしてくれました。そしてこう言うのでした。マオちゃん、もつと勇気を出して、マオちゃん、本当は強い子なんだよ。それに私はマオちゃんのこと分かってるつもりだよ。また悲しくなったらいつでもお話ししよう。そしてマオちゃんのこと何でも話しておくれ。ってお星様とお話すると、とても心が落ち着いて、自分がやさしくなるのが分かりました。そしてジワジワと勇気があえわいてくるのが分かりました。そんなある日、私は決心しました。この気持ち

NO.5  
するとどうでしょう。人からいじめを受けるより、もつともつと強烈に苦しいものを感じました。そして自分の限界に挑戦していくと、人からのいじめなんて、どんなにか、ちっぽけなものかが分かるような気さえしてきました。そして、いじめのことさえ忘れるのになってしまいました。私は自分による自分へのいじめ(苦みの練習)に勝つ事が最大の目標になりました。今、自分がとても清々しく感じられ、自分を自分でほめてあげようと思う毎日になりました。うれしいことに、今はいじめられている人の相談のつてあげたり、力にもなつてあげられる自分になれたことです。今この気持ちを大切にするために、また、この気持ちをいつまでも持ち続けるために、私はこう考えるのです。どんな苦しみにも耐えられるような大きな、大きな夢を持ちたい。そして何よりも、あんな大きな大きな青い空を見上げるそんな自分になりたい。

NO.4  
ちを何とかしたい。そして押さえ切れないこの気持ちを爆発させたい。弱い人の強さを思い知らせよう。心に誓いました。すると、見る見る体の底から力がわいてきました。いじめ返せなかったのが正しいかもしれませんが、自分を高めるという形をとりました。このことはとても大変なことでした。そして、とてもエネルギーが必要でした。いつの時代も、どんな時代も全ての生けるものは、弱肉強食の世界であるということに、かわりがないと思うのです。自分が弱いから、弱いことの痛みがよく分かります。そして弱いからこそ、弱い人の力を見せてあげようと思えました。弱い人が爆発すると、それがどんなにか大きな力を出すか、それを、自分から試してみようと思えました。辛いにも私にも好きなものがありました。そうです、私には走る(マラソン)がありました。とにかく自分なりに精一杯頑張りました。

### あとがき

麻央さんがいじめられているという事実は、最初、両親は気付かなかつたそうです。最初に気付いたのは、お姉さんの麻衣子さんでした。いじめの事実を家族が知ったときから、家族一丸となった取り組みが始まったそうです。両親の取り組みはもちろんでしたが、お姉さんのアドバイスで「人に絶対負けないものをひとつ作りなさい。結果を出せば、周囲は認め



家族の愛がなければ、戦えない  
(前列右が麻央さんです)

るものだ。」の一言が麻央さんにとって、今も心に強く残っている言葉だそう。また、麻央さんには、文通を通して希望と勇気を与えてくれる相談相手の存在が大きな力となっていたそうです。このように、いじめに一人で立ち向かうのは大変なことです。だから、自分を認めてくれる、そして、勇気を与えてくれる人の存在が必要。今の麻央さんの心境を聞いたところ、「私は、いじめられたという事実は最初は悲しかったが、乗り越えられた今は、むしろ、よい体験ができたと思っている。」と、人間もしささ感を感じさせてくれました。

### いじめ一言インタビュー

※このインタビューは学校や街角で聞いた100人(生徒・教師)の意見のなかから抜粋したものです  
▶いじめ?ないない/和気あいあい(高1・男)▶いじめは絶対にゆるさない。教師の指導と生徒がいじめをなくすんだ。学校全体で「なくすぞ」という一体感をもつことが必要(教師歴8年・男)▶自分がまきこまれそうで、助けてあげられない。ごめんなさい(中2・男)▶俺は積極的に助けてあげる(中2・男)▶積極的な助けは不可能。(中2・男)▶いじめは、大人と子供の区別なく絶対にあってはいけないこと。もつと、助け合ったり、ささえ合うことを教えていこうと心に決めています(教師歴17年・男)▶実際にいじめであっても、それがふざけあつてるのかいじめてるのかわからない(中3・女)▶うちのクラスにいじめられっ子がいて、差別や突き飛ばしを受け、何かかわいそう(中3・女)▶私には現実味がなくて。みんなひとごとだよ(中3・女)▶教師と生徒の間に壁ができないようフランクな感じできあうようになっています。いじめは早期発見が大切(教師歴13年・男)▶やられたら、引越しちゃ(中3・男)▶いじめをやると、後で自分に返ってくる。だからしない(中3・女)▶昔に比べて子どもの人間関係が希薄(教師歴18年・男)▶劇をやって、いじめられている子の役をやり、その劇でいじめられている子のつらさやいじめられている子の気持ちがわかりました(中3・女)▶子どもたちは頭では分かっている行動に移すところで、ためらいと、まわりの目を気にしすぎる(教師歴9年・男)▶いじめで自殺しちゃう子がいるけど、耐え難いことだとは思って命を断つことだけはやめてほしい(中3・女)▶家庭環境もいじめの一因。実際は高学年になるにつれて、いじめは減る傾向にあり、これは子どもたちの心が、少しずつ育っていることの現れとも感じます(教師歴21年・男)